

黒潮

和歌山県看護協会 会報

平成29年1月発行

第138号

発行所

公益社団法人 和歌山県看護協会

〒642-0017

海南市南赤坂17

TEL:073-483-1005

FAX:073-483-1266

http://www.wakayama-kangokyokai.or.jp

発行人

古川 紀子



イラスト／広報委員 和田聖子

CONTENTS

- 新年のごあいさつ 2
- 私の〇〇 8
- 平成28年度地区別（近畿地区）法人会員会を
ホテルグランヴィアで開催 2
- リレーエッセイ 友達の輪 8
- ナース章受章者のことば 3～4
- 男の時短料理 8
- 保健師のコーナー 5
- My Hospital 9
- 助産師のコーナー 5
- プレゼント 9
- 看護師のコーナー 5
- 和歌山県病院協会学術大会シンポジスト
として参加して 10
- 専門・認定看護師のコーナー（トピックス2017） 6
- ナースの輝く人生応援交流を開催して 10
- 平成28年度都道府県地区支部等における高齢者および
認知症者支援のための看護職連携構築モデル委託事業 6
- 和歌山県看護協会の動き 11
- 地域連携のコーナー 7
- 平成29年度改選役員・推薦委員および平成30年度日本看護
協会代議員、予備代議員への立候補・推薦について 11
- 訪問看護ステーションだより 7
- 本の紹介 11
- 医療安全数珠つなぎ 8
- 看護師職能 I News 12

和歌山県看護協会 会員数

平成28年12月14日現在

| | |
|------|--------|
| 会員総数 | 5,617名 |
| 名誉会員 | 1名 |
| 保健師 | 130名 |
| 助産師 | 201名 |
| 看護師 | 5,087名 |
| 准看護師 | 198名 |

年頭のご挨拶

～輝く一年となりますように～

公益社団法人 和歌山県看護協会 会長 古川 紀子



謹んで新年のお慶びを申し上げます。会員の皆様におかれましては、お健やかに平成29年の初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

和歌山県看護協会は、公益社団法人としてスタートして5年を経過し、様々な事業に取り組んでいるところです。日頃から会員の皆様のご支援とご協力をいただき、協会活動が円滑に推進できますことを、心から厚くお礼を申し上げます。

和歌山県では、急激な少子高齢社会に向け、「和歌山県地域医療構想」が策定されました。県民すべての願いである、健やかに生まれ・育ち、住み慣れた地域でその人らしくいきいきと安心して生活できるために、在宅医療を含めた地域包括ケア体制の構築が進められています。

このような状況の中、看護職能団体である和歌山県看護協会は、社会の変革と共に重要性を増す看護の役割を認識し、行政はじめ関係団体との連携を密に取り組んでまいります。

「看護の将来ビジョン」が日本看護協会から示されています。「いのち・暮らし・尊厳を守り支える看護」の実現をめざし、自信と誇りを持ち看護の専門性が発揮できるよう努めてまいります。

今年も、和歌山県看護協会の会員の皆様の看護への熱い思いを結集し、看護協会の使命である、①教育と研鑽に根ざした専門性に基つき看護の質向上を図る②看護職が生涯を通して安心して働き続けられる環境づくりを推進③人々のニーズに応える看護領域の開発・展開を図る を念頭に置き、会員の皆様と共に更なる看護の役割を発揮していきたいと考えております。皆様の一層のご支援ご協力をお願いいたします。

平成28年度地区別(近畿地区) 法人会員会をホテルグランヴィアで開催

坂本すが会長はじめ日本看護協会役員・理事10名と近畿地区看護協会長・専務理事10名を迎え、1. 今後の看護職養成に関する日本看護協会の方針について、2. 地域における看護政策力強化について、3. 認定看護師教育および特定行為研修の実施に関する検討について、4. 新「会員情報管理体制」移行に関する進捗報告などの議題を、活発に協議、意見交換会を行った。その後、来賓として仁坂知事をはじめ幸前県福祉保健部長、野尻健康局長、寺本県医務課長、亀田看護班長と、近畿地区の各職能委員長も参加し交流を図った。

***** ナース章を受章して *****



カルフル・ド・ルポ印南 佐藤 房子

この度、栄えあるナース章を賜りましたこと誠に名誉なことで深く感謝致しております。これも、私を支えてくれました皆様のお陰です。有難うございました。看護師として働かせて頂き42年長いようで短かったように思います。

その間、施設・在宅看護に携わり、訪問看護協議会、支援専門員協会の設立に立ち合わせて頂いたり、老健・

特養ホームの立ちあげ等私自身勉強になり、人として成長させて頂きました。

現在、看護師職能委員会Ⅱの委員をさせて頂いております。更に施設・在宅における看護の質の向上と地域に出向き皆様が安心して暮らせる町づくりに関わらせて頂きたく日々精進してまいりたいと思います。今後ともご指導の程よろしくお願い致します。

この度、栄えある和歌山県ナース章を賜り誠に光栄に存じます。

看護師になって以来、ただ患者様や周りの方々に迷惑にならないようにとの思いで職務に当たってまいりました。そのような私がこのような立派な章を頂けたのは、ご推薦くださいました関係者の皆様、上司、同僚、後輩の皆様のお陰と感謝申し上げます。昭和54年に紀南病

紀南こころの医療センター 沢辺 薫

院に就職、平成13年から現在の精神科にて勤務しております。ご縁あって出会った患者様、家族様から多くのことを教えていただきました。どれだけのお返しが出来ているかわかりませんが、これからも患者様・家族様に満足して頂ける看護を目指して努力してまいります。今後ともご指導の程よろしく願いいたします。

日高振興局 健康福祉部 西岡 倫代

この度、栄えある和歌山県ナース章を賜りましたこと、身に余る光栄に存じます。ご推薦を頂いた関係機関の皆さまには心よりお礼を申し上げます。そしてご指導、ご支援を頂いた諸先輩方や同僚、友人の皆さまのおかげだと感謝申し上げます。

保健師として37年間を振り返ると個々への支援の中で出会った多くの人々に育てて頂いたことや地域の人々と

進めた健康づくり、関係者や関係機関との連携、また様々な仕組みづくりに携わったこと、災害派遣など多くのことが思い出されます。

この受章を心に刻み、これからも地域の様々関係者や関係機関とともに協働して「地域の人々がここに住んでよかった」と思える地域をつくるという視点を大切にしていきたいと思います。

紀美野町役場 湯上 ひとみ

この度多くの皆様のご尽力により、栄えあるナース章を受章し、大変嬉しく光栄に存じます。

思い起こせば、昭和56年に旧野上町の町保健婦として初めて採用され、海南保健所の駐在保健婦さんや近隣の保健学部の同級生からの助言、海南海草有田管内の先

輩保健婦さん方からのご指導をいただけたお陰で、何とか辞めずに今日に至ったと思っています。

今後は受章に恥じないよう、町保健婦として地域に貢献するとともに、後輩保健婦や看護者の活躍を支援していきたいと思っております。ありがとうございました。

医療法人 青松会 河西田村病院 塩治 功子

この度、栄えある和歌山県ナース章を賜り、身に余る光栄に存じます。

お世話になりました関係者の皆様方に心から深くお礼申し上げます。

長きに渡り看護の仕事をしてこられたのも上司、先輩、同僚、家族は勿論ですが、たくさんの学びをくださった患

者様、その家族の皆様のお陰だと深く感謝いたします。

高齢社会を迎え、医療と福祉の連携が重要になってきています。人々が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、その期待に応え信頼できる病院、看護の提供を目標に精進してまいります。

今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

済生会有田病院 小原 喜代子

この度、和歌山県ナース章を賜り、身に余る光栄でございます。

ご推薦くださいました関係者のみなさま方に、深く感謝し、お礼申し上げます。

看護師免許を取得してから、33年となりました。

中学生の頃からなりたかった看護師でしたが、就職した当初は、失敗の連続で落ち込み、「続けられるのだろうか」

と思い悩んだこともありました。

それでも、ここまで続けることが出来たのは、上司、同僚、後輩の皆様方に恵まれたお陰と深く感謝しております。

今後は、より一層「安全で良質な看護」の向上を目指し、地域の方々に親しみ、信頼していただけるように精進して参ります。

今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

和歌山赤十字看護専門学校 高岸 壽美

和歌山県ナース章を賜り身に余る光栄に存じます。また、凛とした姿を示し導いてくださった赤十字の看護の先輩方の後輩として大きな喜びと誇りをかみしめております。ご推薦くださった皆様方、そして温かくご指導・ご支援くださったすべての方々に心から感謝を申し上げます。

赤十字の看護師として、臨床と教育の場だけでなく災

害の現場や県内の医療施設等で多くの方々と出会わせていただき、そのすべての出会いが看護職者としての自分を育ててくれました。「未来の看護からの預かりもの」である学生と共に学び、「知恵と思いやり」を実践できる看護を紡いでいくことに力を注いでいきたいと思っておりますので、今後ともご指導よろしくお願いたします。

紀南病院 福山 悦子

この度、栄えある和歌山県ナース章を賜り身に余る光栄でございます。

ご推薦くださいました関係各位の皆様方に心から深くお礼申し上げます。

紀南病院に就職して以来、家と職場を行き来しながらあつという間の38年間でした。今日まで勤められたの

も、よき上司、同僚、後輩の皆様、そして家族の支えがあったおかげと感謝いたしております。医療・看護を取り巻く環境は厳しいですが、よい看護が出来るように、いきいきと働き続けられる環境づくり・人づくりを目指して努力してまいります。今後ともご指導よろしくお願申し上げます。

和歌山県立医科大学附属病院 岡室 優

この度、栄えある和歌山県ナース章を賜り身に余る光栄に存じます。ご推薦くださいました関係者の皆様方に心から感謝を申し上げます。和歌山県立医科大学附属病院に就職し、いろいろな方との出会いがあり、多くのことを学ばせていただきました。これまで私を支えていただいた患者様・上司・先輩・同僚の皆様、時には「厳し

い指導や励まし」、また「暖かいお言葉」をいただいたことに感謝します。高齢化社会の中で看護師が果たす役割は多く、患者が安心、安全で治療が円滑におこなえる病院環境づくりのため、後輩看護師の育成に関わっていきたくと考えております。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願申し上げます。

保健師のコーナー

保健師職能委員 黒田 恵美

昨年、保健師職能委員をさせていただいております。各地区で中心に活動されている皆様との出会いは、多くを学ぶことができました。また、委員長さんから看護協会での活動方針など重点に取り組んでいる方向などを伝えていただき職場でも情報提供することができました。

話はかわりますが、先日、ミシュランガイド1つ星にランクされているフランス料理店に息子と二人ででかけました。

お料理ひとつひとつがとてもおいしく独創的で、素材を生かし、ところをこめて提供していただきました。また、シェフ自らが、テーブルに来ていただき、いかがでしたか？と話かけていただき、お顔が見える関係が出来ました。また、スタッフの方もお迎えからお見送りまで、心をこめて、接していた

できました。行く前までは、少し敷居が高い感じを想像していましたが、シェフ自らが、話かけていただき家族的な暖かさを感じる事ができました。

また、お誕生日のお祝いに来ている若いカップルがあり、シェフからのケーキが届けられ、Happy Birthday の歌にローソクを消すとフロアーから柔らかな拍手が起こりました。少し照れながらも幸せそうな様子が心が和みました。

どうしてこのようにも、こころがこもった暖かさを感じることができたのでしょうか？近づき過ぎず遠すぎず、いい塩梅（あんばい）のタイミング、何か大切なものいただいたように思えました。心地よい時間に感謝しながら帰途につきました。

助産師のコーナー

助産師職能委員 吉村 友美



助産師職能委員会で活動させていただき2年目になります。恥ずかしながら委員会に参加した当初は、職能委員会の存在や活動も十分に把握できていない状態でした。しかし、何もわからない私に、委員長や委員会メンバーが優しく丁寧に色々なことを教えてください、とても楽しく委員会活動

に参加させていただくことができています。

職能委員会では研修の企画・運営、他府県職能委員との合同研修や交流など様々な学習の機会があります。研修などを通じて、最新の知識を学習できるのはもちろんですが、他施設の助産師から様々な情報を得られることも多く、とても良い刺激をもらえる場となっています。また、広い視野を持つ

て新しいことにチャレンジする気持ちや、様々なライフサイクルにある女性に柔軟に関わり支援できる助産師として成長したいと思わせてくれる場でもあります。

今年度も、助産師が自らの力を発揮し、母子を含めた全ての女性によりよいケアを実施できるよう様々な研修の企画・運営をおこなっています。今後予定されている研修会や交流会もとても興味深い内容となっていますので、皆様には是非ご参加いただき一緒に学びを深められたらと思います。

また、助産師会員間の連携を図り、情報伝達や課題発見に努めるため県内助産師ネットワーク化に向けた取り組みも進めています。ネットワーク化実現のために、皆様のご協力をお願いいたします。

看護師のコーナー

看護師職能委員会Ⅰ 土山 美恵子



看護師職能委員会Ⅰの活動に参加させていただき、2年目となります。活動を通じ、各施設の方々と接することでの学びも多く、有意義な経験をさせていただいています。

職能委員会Ⅰでは、年間を通じて、さまざまな研修会を企画運営しています。社会構造の変化や医療提供体制の変革に応じ、看護システムや看護師に求められる役割も変化していきます。研修企画にあたっては、できるだけタイムリーなテーマを取り上げるようにしています。今年度は、増加する認知症患者の理解と対応を目的に、専門医による「認知症について」の講演会を職能委員

会Ⅱと共同開催し、多数の方にご参加いただきました。また、「看護師のクリニカルリーダー（日本看護協会版）」の理解と周知を図るための研修会も企画運営しました。今後も、皆さまに興味を持って参加していただき、臨床現場で少しでも役に立つ研修会を企画していきたいと思いをしています。

黒潮の職能Ⅰコーナーでは、「いきいきと働き続けられる職場を目指して」をテーマに各施設での取り組みを連載しております。137号からは、「看護師職能Ⅰ News」と名称をリニューアルし、さらに読みやすい紙面となっています。働きやすい職場環境づくりは、職員満足にとっても重要な部分であると考えます。今後も、ホッと一息つける紙面づくりを目指して、委員全員で取り組んでいきたいと思いをしています。

看護師のコーナー

看護師職能委員会Ⅱ 山下 陽子



日本看護協会は、昨年6月に「2025年に向けた看護の挑戦 看護の将来ビジョン～いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護～」を公表しました。どのような健康状態でもその人らしく暮らしていける社会を目指し生涯にわたり生活と保健・医療・福祉をつなぐ看護を提供しなければならない

といわれています。また、地域包括ケアシステムの構築が謳われているなか、在宅・施設等での長期療養の生活者を支える看護職への期待と負担は大きくなると考えられます。

看護師職能委員会Ⅱで活動させていただいて今年で5年目となりますが、まだまだ在宅・施設で勤務する看護職の課題は多

く、看護・介護の質向上に向けて出前研修会を開催したり、アンケート調査を通して現状把握をしています。

今年度最初の研修会「高齢者のフィジカルアセスメント」では、在宅・施設だけでなく病院勤務の看護職も多数参加され、高齢者の医療提供者の看護を学びました。また、昨年まで近畿地区で行っていた「高齢者ケア施設看護管理者交流会」を都道府県別で開催することになり、県内各地から参加して頂き、基調講演会と「看護・介護の連携」「人材確保と育成」「多職種（地域）との連携」についてグループワークを行なうことが出来ました。私は、今後も在宅・施設等で勤務する看護職が、いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護を提供できるように、看護師職能委員会Ⅱの活動に邁進してまいりたいと思いをしています。

「紀南地域における集中ケア認定看護師としての活動」

新宮市立医療センター 集中ケア認定看護師 汐崎 末子



当センターは、紀南地区の最南端にあり地域の中核病院として存在しています。私はその中で、循環器内科、心臓血管外科を中心にした病棟に認定看護師として在籍し、4年目になります。当センターは、とくに脳心血管系の重症患者が日々搬送されますが、ICU 部署がないため一般病棟で超急性期患者と慢性期患者を同時に看護しています。その環境から、安全管理と呼吸器の早期離脱を目的とした RST（呼吸サポートチーム）を5年前より立ち上げ、私はそのチームの中で中心的役割を担っています。

RST では、看護スタッフとチームメンバーへ教育と実践を提供しています。教育では、院内研修の講師、ベッドサイドでの OJT などに加えて、近隣施設の看護師へ研修も行っています。研修では、呼吸管理について新しい情報を提供しつつ、基本的には日常的に身近な酸素療法や人工呼吸器の基礎を中心に計画し指導しています。実践では、呼吸器装着患者の院

内ラウンドや病棟内での看護業務を通して、役割モデルを意識した根拠に基づいた行動を心がけています。

そうした活動の中、最近では RST 医師やコメディカルとともに「集中治療室における成人患者に対する痛み・不穏・せん妄管理のための臨床ガイドライン：日集中医誌 2014」を臨床に取り入れる試みを開始しています。試みの一つとして、当センターで医師・看護師が活用できる鎮静・鎮痛管理のプロトコルを作成しました。プロトコルには、具体的な鎮静薬と鎮痛薬の使用法と評価法の推奨を載せており、院内スタッフなら誰でも簡単に閲覧できるような仕組みをとっています。

認定看護師の役割は、組織の中で新しい知識の更新と、従来方法の検証を常に行う努力をすることだと認識しています。今後も、役割に見合うように、自己研鑽していきたいと思います。

平成 28 年度都道府県地区支部等における高齢者および認知症者支援のための看護職連携構築モデル委託事業 ～海南・海草地区看護職研修会を主催して～

海南・海草地区支部長 清水 多津子

平成 28 年 11 月 19 日（土）看護研修センターにおいて、日本看護協会看護職連携構築モデル委託事業の研修会を開催しました。前半は橋本市民病院の大饗義仁先生に「認知症について」をご講演頂きました。後半は病棟看護師（榎葉雅人氏）・訪問看護ステーションに勤務する看護師（井本恵子氏）・市町村保健師（村田かおり氏）の3名がそれぞれの立場から連携について発表し、日赤医療センターの米田恭子さん（認知症認定看護師）を交えてのディスカッション。活発な意見交換が行われました。この事業は、日本看護協会からの委託を受け、都道府県看護協会地区支部単位における看護職連携構築を目的としてネットワークの基盤強化を行うものです。全国 20 か所で実施される事業に和歌山県看護協会が手挙げをされ、その実施選定地域に海南海草地区支部が選ばれたことを大変光栄に思います。参加者数 112 名と会員の意識の高さに感銘を受けた研修会でした。



地域連携のコーナー

地域連携室・医療福祉相談室

医療法人南労会 紀和病院 副院長 **岩崎 留美**
MSW **結城 賢輝**



医療法人南労会と医療法人玄同会は、平成27年9月1日に法人合併し、医療法人南労会として医療療養型病床を確保しました。さらに平成28年6月1日より紀和病院212床は、伊藤病院68床を統合し、280床の病院として生まれ変わりました。

今回の統合により、地域住民の皆さまが「住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後までおくりたい」という願いにさらに近づける体制が整いました。

新生紀和病院は、急性期から慢性期までの多様な病状の方々に合致した連続性のある医療提供体制となり、患者さんの状態に応じたきめ細やかな医療をこれまで以上に目指してまいります。

それに伴って外来・入院患者様、ご家族様からの

相談も増加し、時には地域住民の方々からの相談にも応じています。相談内容は、転帰先、経済面、社会保障制度、権利擁護、家族関係など多種多様です。世相も反映して、問題は単一的なものではなく、複合的な場合も多いので他職種、他機関とのネットワークは欠かせないため当院では地域連携室に医療相談室が併設されています。

問題解決や情報共有を目的にカンファレンスも積極的に取り入れています。今後は、地域の関係機関との更なるネットワーク強化を図り、また、「相談して良かった。」「安心して生活が出来る。」と感じていただけるようなソーシャルワークを実践できればと思っています。

訪問看護ステーションだより

訪問看護ステーション・キタデ
黒谷 有里



平成6年4月1日に「老人訪問看護ステーション・キタデ」の名称で開設しました。

その後、平成8年4月1日に「訪問看護ステーション・キタデ」に名称変更し、現在看護師12名（パート5名）、准看護師1名、介護福祉士1名、理学療法士10名、作業療法士2名、言語聴覚士1名（病院兼務）、事務員2名で活動しています。

精神科訪問看護の指定を受け、今年から精神科の患者さまの受け入れが始まりました。また看護学生の実習受け入れも始まり、未来に向けて後輩たちを育てる為に皆で協力しています。

看護・リハビリの間では、より専門的な立場での意見交換を行い日々のケアに活かしています。神経難病やがん終末期の在宅看取りなど利用者さまの抱える疾患は様々ですが、本人さまやご家族さまを支えるケアができるよう、「目くばり 気くばり 心くばり」をモットーに、スタッフで力を合わせ頑張っています。

医療安全

数珠つなぎ

つくし医療・福祉センター

木村 晴美



当センターは病院機能を兼ね備えた障がい児・者の施設です。看護師半数と介護スタッフ半数と、多職種協働のなか、安全管理スタッフに協力を得て、医療安全に取り組んでいます。活動内容は、同じインシデントを起こさないようにSHELL分析をおこなったり、学研ナーシングサポートの活用により安全意識の向上

を目指しています。また、KYT・安全パトロールにより、利用者さんが安心して過ごせるよう、環境を整えています。

次回号で紹介させていただく方は
貴志川リハビリテーション病院 小山 真州美 様です

私の



「私の闘病記」

医療法人 中江病院 馬場 恵美子



私は現在休職中です。6年前より病気を発症後より治療中、上司や同僚の協力で看護師として働き続けられていましたが、昨年8月末より体調不良のため、治療に専念しています。もう一度、看護師として仕事ができ、家族のために早く社会復帰できるように、日々頑

張っていますが、病魔に負けることもあり、休職中でも上司や仲間からの励ましのエールを送って頂き、本当に大きな心の支えとなっています。患者の立場としての今だからこそ看護師として学ぶことが大きく、これからの私の大きな力になります。『ありがとう』

リレーエッセイ

友達の

輪

Vol.56

日本赤十字社和歌山医療センター 榎本 多恵

私は、病棟スタッフとして働いていますが、乳がん看護認定看護師として活動しており、週に一回は乳腺外科外来で、診断後の患者さんやご家族の相談に応じたりしています。乳がん診療の発展に伴って、個別化治療がすすむなかで、出来る限り患者さんの希望やライフスタイルに応じ、納得した治療を安心して受けられるようサポートしていきたいと思っています。病棟スタッフ、外来スタッフと協力し、日々看護が出来ることに感謝します。



今回は、月山チャイルドケアクリニック 長尾 真理さんをご紹介します。

男の時短料理

第5回

済生会和歌山病院 根木 祐一郎

ポークアップルジンジャー

作り方

- ① 豚ロース(とんかつ用)を2枚、包丁の背で叩いて塩コショウをし、小麦粉をまぶす。
- ② りんご1/4、生姜(お好み)、玉ねぎ1/4をフードプロセッサーで細かく擦り刻む。
- ③ ②に醤油とみりんを大さじ3~4杯、砂糖小さじ1杯を入れ混ぜる。
- ④ ③を鍋で少し煮詰める。
- ⑤ 豚肉にしっかり火が通るよう、両面焼く。
- ⑥ 焼けた豚肉をお皿に盛って、④のソースをかけると完成!



My Hospital

独立行政法人 国立病院機構 和歌山病院



看護部長 空山 直子

当院は、和歌山県のほぼ中央部である日高郡美浜町、煙樹ヶ浜の広大な松林のすぐ側にあります。昭和19年9月に「日本医療団延寿浜園」として創設され、平成16年4月に「独立行政法人国立病院機構和歌山病院」に改称し現在に至っています。創設当初は療養所としての役割を担っていましたが、現在では呼吸器内科・呼吸器外科を一体化させた呼吸器センターを有し専門性の高い病院として、地域医療を重視した病院として、また質の高いセーフティネット医療を実現する病院として貢献しています。

今年の4月には念願!の新病棟(310床)を開設し、患者さんにとって快適な療養環境が提供できるようになりました。

呼吸器内科・外科病棟では、肺癌の診断から手術、化学療法、終末期医療と各病期に応じた看護を提供し、がん化学療法看護認定看護師、がん性疼痛看護認定看護師とともに、看護の質向上に努めています。また、高齢の患者さんが増加するなか、10月には認知症ケアチームを立ち上げ、認知症看護認定看護師を中心に活動を開始しました。

神経内科病棟では、和歌山神経難病ネットワークの拠点病院として、神経難病患者の受け入れ、在宅療養患者に対する短期入院等、患者さんのみならず家族を含めたケアを行っています。

重症心身障害児(者)病棟では、医療・生活・療育を通して、患者さんの持てる力を最大限に発揮できるように多職種が連携をとり、質の高い療養介護サービスを提供しています。

また、患者さんの人権尊重への取り組みをはじめ、今年度は御坊警察署の協力のもと防犯研修を開催しました。警察署署員が犯人役に扮し、迫真の演技で迫るなか、看護職員が必死に挑戦する実践訓練と護身術の実技指導を受けました。

2025年に向けて医療・看護を取り巻く社会の変化に“しなやかに”対応しつつ、患者さんに安心と信頼をいただける看護を提供し、看護師が生き生きと働き続けられる病院をめざしてがんばっています。



第26回

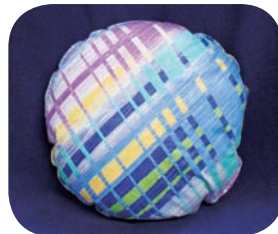
プレゼント!

はがきに ①希望の商品名 ②氏名 ③会員番号 ④郵便番号・住所 ⑤電話番号 ⑥勤務先名 ⑦本紙へのご意見・ご要望を明記の上、2月25日(土)までにお送りください。

(消印有効・1人1通のみ)

抽選の上、当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

宛先 〒642-0017 海南市南赤坂17 和歌山県看護協会 「1月号プレゼント」係



「足まくら」
を
2名様に!

どちらか1つ
当たります!

「クオカード」
1,000円分を
3名様に!

プレゼント
応募者の
声

- たまに知っている人が出ているとテンションが上がります。
- 施設だより、他の施設がどのような取り組みをしているのかを興味深く読ませて頂きました。
- 「男の時短料理」のコーナーはおいしそうで自分でも作れそうです。

三和歌山県病院協会学術大会シンポジストとして参加して

貴志川リハビリテーション病院 大久保 まさ子

第21回和歌山県病院協会学術大会に、看護協会代表のシンポジストとして参加し、平成28年度診療報酬改定後の現状と課題について、医療専門職の視点で発表させて頂きました。今回、特に認知症ケアや退院支援は、ケアの本質である生活者としての人への関わりの成果が、評価に繋がったと思います。

しかし、今後は2025年問題に対し、「治す医療」のみにとどまらない「治し、支える医療」への質的転換が求められます。そのためには、訪問看護ステーションの機能強化と生活者としての自律支援ができる看護職の育成。そして、病院の看護職が地域に出向き、施設・診療所も含めた地域との看看連携を推進するシステムの構築が課題となります。

30年前、(前)リハ看護学会会長落合芙美子氏より、21世紀はケアの時代「キュアからケアへ」と言われた事を回想する大会でした。



三ナースの輝く人生応援交流会を開催して

ナースセンター推進委員 高垣 通代

本事業は、看護職員の就業促進の為、再就業者の増加を図ることを目標に実施しており平成26年度より「ナースの輝く人生応援研修」として開催しています。

今回第3回研修会を、11月18日、13求人施設、25名の参加者にて開催致しました。

今回は昨年に追加して

- ・再就業された方の体験談
- ・看護技術体験コーナー

を設けました。体験談は、参加者の方々には、より身近な話として聴いて頂けたのではと思います。又、看護技術体験コーナーには多くの方が参加され、体験されていました。

求人施設は、短時間の中で、詳細に施設紹介を頂きました。

全体会終了後は、各ブースにて、より詳細な点を熱心に聞かれている方も多く見られました。

ナースセンター推進委員会としては、本事業を通じて1人でも多くの方々の就業に結び付けば幸いです。



採血の練習

東洋羽毛の **無料!!**
コーヒーサービス

東洋羽毛では、お世話になっている方々に無料コーヒーサービスを行っております。院内での師長会議・主任会議・ラダー研修会・研究発表会・勉強会等、地域や支部での看護部長会・看護研修会等での休憩時にホッと一息つきませんか？

どんな所でも無料で出張サービスさせて頂きます



0120-88-2104



片隅にちょっとだけ、企業PRとしてお布団を置かせて頂いております。ご購入にも応じます。

東洋羽毛関西販売株式会社

お気軽に御利用ください。

和歌山県看護協会の動き

平成28年度第5回理事会

開催日時：平成28年12月7日（水）13：00～16：30
会場：看護研修センター会議室1

I 協議事項

- 1) 看護協会長表彰について

以上 承認

- 2) 地区別法人委員会・職能委員長会の報告
- 3) 日本看護協会・県内関連団体会議参加報告
- 4) 担当理事報告
- 5) 会員数について
- 6) その他

II 報告事項

- 1) 日本看護協会理事会報告

平成29年度改選役員・推薦委員および 平成30年度日本看護協会代議員、予備代議員への立候補・推薦について

《選挙管理委員会からのお知らせ》

平成29年6月10日（土）に開催する定時総会において平成29年度改選役員、推薦委員および平成30年度日本看護協会代議員、予備代議員の選挙を実施します。立候補される方は、正会員5名以上の推薦を受け、立候補届け出用紙を下記に郵送してください。

【改選役員数と役職など】

1. 理事 7名
副会長1名、専務理事1名、書記1名、
保健師職能委員長1名、助産師職能委員長1名、
看護師職能I委員長1名、看護師職能II委員長1名、
2. 地区理事 3名（和歌山、海南・海草、新宮・串本）
3. 推薦委員 6名（任期1年）
4. 平成30年度日本看護協会代議員6名、

予備代議員6名

【立候補基準】

1. 和歌山県看護協会の目的達成のための活動に積極的に任務を遂行できる人
2. 和歌山県看護協会の会員歴5年以上で、協会組織を理解している人
3. 和歌山県看護協会が定めた会議に出席できる人

【受付期間など】

提出期限：平成29年2月10日（金）必着
立候補届け出用紙は、和歌山県看護協会にあります。
必要な方はご連絡ください。

《お問合せ・送付先》

〒642-0017 和歌山県海南市南赤坂17番地
和歌山県看護協会選挙管理委員長あて（親展）

本の紹介

「職場のたばこ（喫煙）対策」（改訂）

東京法規出版
著者：高橋裕子（奈良女子大学）
本体 1,500円＋税



看護師職能 I News



今年も
よろしくね！

..... 《第18号》

いきいきと働き続けられる職場を目指して



紀南病院 看護部長 松下 順子

患者や医療従事者に選ばれ、地域住民からも信頼される病院になるには、安全で質の高い医療の提供をすることです。その為には、優秀な人材を育て定着させ、チーム一丸となって“働き続けられる職場を”をつくる必要があります。当院は地域の中核病院であり、職員も地元住民が多く、昨年の離職率は6%でした。いきいきと働き続けられる職場を目指して当院では以下の事を行っています。

《勤務体制》

夜勤・交代制勤務の負担軽減として3交代の勤務間隔を11時間あける体制を平成24年から試行、翌年から全病棟開始しました。当初は反対意見も多く浸透が難しかったですが、現在は73.9%の実施状況で「時間的に余裕ができた」「体が楽になった」など良い評価を得ています。今後は正循環勤務交代が課題です。また、超過勤務削減に向け“帰れコール”を始めました。具体的にはチームリーダーを中心に昼休憩前に業務の進捗状況を確認、最終17時頃に師長から帰れコールを行っています。

《子育て支援》

年間40名程度の産休・育休者がおり、ほとんどが3年間の育児休暇を申請しています。職場復帰の際は「超過勤務が少ない」「夜勤がない、あるいは少ない」などの希望が多く、可能な限り希望に添った配属を心掛けています。また、院内保育所も完備されており入所を勧めています。2010年の育児・介護休業法の施行後は、子供の看護休暇取得者も多くなり、急な休暇請求でも応援体制を組み業務に支障がないよう配慮しています。管理職も育児経験者が多く、子育てへの理解が得られるのも利点と考えます。今年度は当院で初めて男性の育児休暇取得もできています。

《人材育成》

人材育成の年間計画を立て病院の支援を得ることで、認定看護師や教員養成などの長期研修や短期の院外研修にも多く参加することができています。また、クリニカルリーダーやe-ラーニングも採用し院内教育の充実にも努めています。

